

2023年度 中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2024年 2月 9日

学部・学年 現代社会学部 4年

氏名 澤村亜依

- プロジェクト名
大学と地域の架け橋プロジェクト
- 活動期間
2023年 5月 29日 ~ 2024年 1月 31日
- 主な活動場所
中京大学・貝津町公民館
- 参加者 3名（「7.参加者名簿」に参加者氏名等を入力してください）
- 予算・使用経費等（足りない場合は各自で列を足してください）

費目	品名・内容	予算金額	執行金額
例) 消耗品費	文房具、教科書、材料費	100,000円	85,000円
消耗品費	お菓子、飲料、100均	97,978円	26,504円
通信費	WIFI代	16,496円	16,496円
保険加入料	ボランティア保険加入	4,000円	1,020円
備品費	椅子、机	265,970円	0円
施設利用料	公民館、交流館利用料	4,800円	0円
	合計	372,748円	44,020円

6. プロジェクトの活動報告

◆プロジェクトにおける活動内容と目標

<活動内容>

6月～7月 学生のつながりをつくるイベントを開催

8月～10月 様々な方に話を聞いたり、イベントに参加してみたりして、学生と地域がつながる場をどのような形で作っていくべきか検討を重ねる

11月～1月 「こりんカフェ」というフリースペースをオープンし、学生と地域の方が自由に集って、自由につながる場を目指す

*「こりんカフェ」とは、中京大生と貝津町の方々が、自由に集まり、自由につながりをつくり、自由に過ごせる場所。学生も地域の方も親しみやすく、利用しやすいようにカフェという名前をつけた。フリースペースとしての利用はもちろん、利用者の方に楽しんでもらうことと、新たな利用者を増やすことを目的としたイベントも企画、開催した。

<目標>

- ①大学生のサードプレイスをつくる
- ②大学生や地域の方が活躍できる場をつくる
- ③年齢関係なく、地域の方と学生がつながる場をつくる

◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

<中間報告時に抱えていた課題>

①宣伝力の弱さ

学生同士のつながりをつくることを目的としたイベントを3回開催した。SNS及び、ALBOのお知らせ機能、チラシの掲示、ビラ配りを行ったが、参加者が少なく、十分な周知ができていないと思った。

→計画段階ではデジタル媒体での広報が費用もかからず、より多くの人に見てもらえると思ったが、結果が出なかった。今後はビラ配りなどの原始的な方法を使っていきたい。

ALBOのお知らせ機能で通知をしてもらえないか交渉したい。

②イベント開催までの一連の準備の形式化の難しさ

1つのイベントを開催するのに、企画→チラシ作りや準備→広報の一連の流れに十分な時間を割くことができず、広報の期間が短くなってしまうことが多かった。

→9月に準備期間を設けて、イベント準備をサイクル化できるようにしたい。

③地域や学生にどのくらいのニーズがあるのかが不明であること。

9月までの活動の中で正確に測ることはできなかった。しかし、お寺カフェさんとお話しした際に、地域の方は学生の方と話ができることはとても喜ぶと思うとお聞きした。学生にも構想段階で話をしてみると、利用したいという1, 2年生がいたので、多くの学生、地域の方に利用してもらえるように、工夫し、アップデートしていきたい。

④慎重になりすぎてチャレンジ精神を失いかけていたこと。

自分達だけが関係する活動ではないので、地域の方や学生に中途半端に関わることで迷惑をかけないか心配しすぎていた部分があった。9月までに、さまざまなイベントに参加して、人の話を聞いたり、活動したりする中で、実行してみないとわからないこともあると学び、10月以降の計画を再考した。この活動を行うなかで、さまざまな人との出会いや繋がりがあった。そうした方に恩返しができるように、1月の活動終了までに、全力で形にしたいと思う。

<対応結果>

①宣伝力の弱さ

中間報告後に、ALBO お知らせ配信を許可していただいた。

ALBO 配信を見て、学生支援課に問い合わせに来た学生がいたり、こりんカフェに来てくれた学生がいた。

→コロナが明けて、自由に学内活動、学外活動ができるようになった。そこで、多くの学生がコミュニティに属すようになったり、趣味などで自由につながったりできるようになった。コロナ禍という特殊な状況では、身近に通えるこりんカフェが大きな機能を果たすと考えたが、自由に行動できるようになり、学生が自由に学内・学外活動に参加できる状況では、サードプレイスを見つけやすいため、多くの学生が集まらなかったのではないかとこの発見もあった。

②イベント実施までの一連の準備の形式化の難しさ

中間報告の時点で開催日を決定してしまった。フリースペースなので、毎回大きな開催内容変更等もなく、スムーズな運営ができるようになった。

しかし、開催するごとに課題が発生し、毎回の反省を次のこりんカフェで改善できるようにするのにかなりの話し合いを必要とした。中間報告の時点で決定したスケジュールについていく形で、最後まで完走できた。

③地域が学生にどれだけのニーズがあるかが不明であること

元々、交流館などを借りて、月に2回の交流イベントを行うことを予定していた。しかし、夏休みに「大学周辺とはどこか?」「交流の形はなにがいいのか?」「学生は何をもとめているのか?」「自分たちが作りたいたいと思っていたつながりの形はどんなものか?」について、定義することにした。その中で、交流館で行うイベントで学生が集まるのか、地域を大きく考える(例えば保見町、貝津町、猿投町など)ことで地域それぞれの特徴があってやりづらさはないのか、ワークショップという限られた数時間にどれだけの人が時間を合わせてもらえるだろうか、など学生と地域の方がつながりやすい形について話し合いを重ねた。

一人暮らしの中京大生が最も多いこと、大学から最も近いこと、保見町とは異なり、学生が地域に入りこんだ活動をしていないことから、貝津町を選んだ。1日もしくは半日の長時間カフェを開けて時間的にも利用しやすいこと、貝津町の中心に位置する貝津町公民館を利用することで場所的にも利用しやすくして、サードプレイスの特徴に近づけた。さらに、ワークショップという形で参加者を強制的につなぎ合わせることはやめて、来た人

が自由に過ごし、自由につながる「フリースペース」という形がベストであるという結論に至った。

結果論にはなるが、こりんカフェ利用者を対象としたアンケートでは、地域の多くの方が、こういった学生と地域がつながれるカフェを続けてほしいと回答して下さっていた。地域の小学生の保護者さんからも、子どもたちが遊ぶ場、気軽に集まれる場ができてよかったという声や、地域の農家さんは、カフェを利用して大根の宣伝、五平餅の販売など地域の人に活動を知ってもらえる場ができてよかったと回答していた。

A L B Oのお知らせを見て来てくれた学生がいた。彼は、一人暮らしで、アルバイトやサークル活動なども行っておらず、コミュニティが大学と家に限定されていた。彼がこりんカフェに毎回来てくれるようになって、カフェ内でできた友達と学祭に行ったり、来年は八事キャンパスの卓球サークルに入るんだと目標を語っていた。彼にとって、こりんカフェが一つの居場所になっていたと考える。私たちが一番対象としたかった学生であった。

具体的な参加人数は実施結果に各回ごとに記載しているが、数値的な部分よりも、利用者個々人のこりんカフェができてよかったという声を得られたことが大きな成果だといえる。

④慎重になりすぎてチャレンジ精神を失いかけていたこと。

8月から10月の間にさまざまなボランティア団体、イベント、コミュニティカフェについて調べ、訪問した。私たちが考えていた構想をお話しすると、皆さんやってみなよと背中を押して下さった。7月までの学内での活動が思うように行かず、秋学期以降の活動に後ろ向きになっていたが、保見交流館の方からのアポで区長さんにつないでもらい、お寺カフェさん(貝津町で高齢者の方を対象にコミュニティカフェを開いていらっしゃる団体さん)とお話しすることができた。お寺カフェさんにも、こりんカフェを開きたいというお話をしてみたところ、やってみればいいよ！と初回の宣伝や、コーヒーマシンの貸し出しなど、たくさんの方の支援をしていただいた。

コミュニティカフェを開くにあたって、豊田市役所の方と電話でお話しさせていただいた。カフェに何度も足を運んで下さった。豊田市役所、社会福祉協議会猿投支所さんから、来年度以降の豊田市のわくわく事業の利用の話や、人的なサポート、ノウハウなどの面で協力できるという話をしていただいた。貝津町の農家さんは、お試しでフリーマーケットイベントをしたときに、たくさんのもんをもってきて下さって、「学生が地域で頑張ってるんだって所をみんなにみてもらわないとね」と私たちのことをいつも気遣って応援して下さいました。

ほかにも、様々な方に支えて活動を行うことができた。チャレンジの大切さ、そして様々な方に支えられたチャレンジであったことを改めて再認識した。

◆プロジェクトの目標達成状況 (活動内容等を具体的に記入してください)

<達成状況>

エントリーシートの時点で設定していた計画では、「月に2回のワークショップを行う」という具体性に欠けたものだった。私たち自身も具体性がないということを感じている。再度話し合いを行い、学生間での交流や地域での交流において、ニーズに応じて学生や地域の方々と一緒に場を作って行きたいという結論に至った。

拠点作りに関しても、まずは具体的な場所を決めて活動するよりも、学生や地域の方との関係を構築することが優先したいと考えているため、全体として抽象的な印象を与えている。

大学内外の人を巻き込む活動であるため、慎重に取り組まなければならないと考えている。

そこで、今回のプロジェクトの中でお約束を決めた。

- ①一人でも多くの学生を巻き込む。
- ②地域活動を通じて、地域の方々との信頼関係を築く。

以上のお話をさせていただいた。

具体性がなく、実際どのような形で学生と地域の交流を図っていくかということを考えるのにかなりの時間を要した。活動の中で出た答えが、こりんカフェだった。特に、委員の方に説明しなければならないことは、場所とその費用についてだと考えている。エントリーシートや審査の時点では、「空き家」という場所にこだわっていた。空き家にこだわっていた理由は、①誰のもの・場所でもないから学生と地域のかた両方が利用しやすいと考えていたから②貝津町でも利用されていない空き家があり、そうした場所を活用することができないかと考えたから③色々な使い方ができるから。

しかし、活動を行ってみてわかったことは、公民館という設備が整った場所を利用することと、空き家を借りて、1から椅子や机、電気水道などにお金を費やすこととを比較した時に前者のメリットのほうが圧倒的に上回ることであった。

つながりにはお金がかからない、これが一番の学びであったとも言える。

- ①一人でも多くの学生を巻き込みます

来年度以降に引き継いで行こうと考えている。今年度は、数字だけ見れば学生の利用状況が伸び悩んだ。しかし、学生一人一人のリピート率は高く、こりんカフェを超えたつながりになっている。参加した学生の中で、来年度以降のこりんカフェを引き継ぎたいと行ってくれた後輩がいたり、豊田市青少年センターの活動に参加したり、工学部宮田ゼミさんの「環境保全と向き合う堆肥プロジェクト」の意見交換会に参加したり、こりんカフェをきっかけにみんなで挑戦するが広がっている場にもなったのではないかと感じている。

②地域の方々との信頼関係を築く

もちろん、貝津町の方の中には、利用していない方もいらっしゃるし、学生が公民館を利用することをいいと思っていない方もいるかもしれない。それでも、区長さん、副区長さん、役員さん、子供会の会長さん、地域の高齢者の方、小学生とそのお母さんなど様々な方とお話をして、こりんカフェの運営について説明した。区長さん、副区長さんも公民館の利用料は無料でいいとのこと。貝津町の方にアンケートをとったところ、これからも続けて行ってほしいという声が多く、来年度以降もこりんカフェを運営していける土台作りには貢献できたのではないかと考える。

自己評価による達成度： 120 %

少ないメンバー、車なし、貝津住みではない、かなり忙しい時期という条件の中で、ここまで形にして完走しきれたから。エントリーシートの時点では、具体的に想像することができなかったつながりの形を、試行錯誤を繰り返しながら実際に形にできたから。

◆改善点、やり残したこと

来年度以降、後輩がこのプロジェクトを継続しようと、チャレンジ奨励金に応募した。運営者が変わることで新たな視点や考え方で素敵な場所を作ってくれてくれると思う。

【改善点(アンケートより)】

<学生>

- ・WIFIがほしい
- ・もっと多くの学生が集まるとよかった
- ・多世代で取り組める何かがほしい
- ・わかりやすい告知

<地域>

- ・もっと人が集まればいいと思う
- ・今年だけで終わらず、より強いつながりができるように続けてほしい
- ・土日の開催がいいと思う

これらの課題を解決できるように、来年度以降の活動エントリーシートを作成している。

【やり残したこと】

目標が見えなくなることがあって、目の前の課題に追われすぎていた。目標をはっきりと定めていたら、もう少し近道ができたのではないかと思う。

活動を始めようと思った時から、長期的に考えていたので、私たちがやり残したことは、後輩に託す。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気付きを得たか

・机も椅子も暖房設備も整っている貝津町公民館で開催することと、空き家を利用するメリット（空き家利用、だれもが来やすい場所など）を比較した時、前者の方が上回ると気付いた。

=つながりにはお金がかからない。お金には代えられない素敵な出会いがあった。

・よそ者として地域の方に受け入れてもらえないという懸念は、私たちの想像の部分が多く、実際地域の方に、こんなふうな活動をしてもらえてと感謝していると言われることが嬉しかった。

・応援してくださる人がたくさんいること。

支えてくださった方々に関しては、前述したが、こりんカフェへのお礼として、農家さんが下さったメッセージを抜粋する。

「こりんカフェは、私にとってすごい挑戦的なアクション、よくやりきった！でした。初めは授業の単位のためと思って行きましたが、そうではないとのこと。町内で同じような活動をされている方にアプローチをしていく。来客のための営業声かけも自分たちですて、笑顔で来てくれた人をもてなしてくれました。全部無償。貴重な学生生活の時間とエネルギーを地元注いでもらい、うれしかったです。町内で足を運んだほかの人もきっと同様の思いです。」

このメッセージをいただいたときに、メンバーで本当にこの活動を始めてよかったと心から思った。忙しい忙しいと言いながらも、こりんカフェは本当に大切な場所で大切な時間

だったと思う。

◆今後チャレンジしていきたいこと

(例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください)

私たちは今年卒業してしまうが、来年この活動を継続しようとしてくれている後輩ができた。最後のこりんカフェで、時間を超えても学生が立ち上がり、みんなこりんカフェの終わりを惜しんでくれた。最後は、これから頑張りたいことを語って、涙で終わった。

4年の2名は卒業するが、引き続き愛知にいる間は、こりんカフェに顔を出そうと思っている。大好きな後輩ができたので、彼ら彼女らのチャレンジを応援すると同時に、彼ら彼女らに刺激を与えられる先輩であるように、社会人を頑張ろうと思う。

◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。

【5月～7月】学生同士のつながりをつくる

5月29日 経費執行説明会

→5月に第1回のイベントを開催予定だったが、チャレンジ奨励金の活動開始日程変更のため、実施できなかった。

活動開始

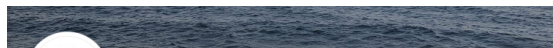
- ・教室貸出申請
- ・ポスター貼り付け申請
- ・イベント申し込みフォーム作成

6月1日 ポスター作成

6月2日 ポスター貼り付け場所の確認

SNS アカウント作成

6月4日 SNS アカウント始動



中京大学【大学と地域の架け橋プロジェクト】

@kakehashipj

【こりんカフェ運営中】 "地域" で活躍したい、つながりが欲しい "大学生" のための居場所づくりを行うプロジェクト → 期間限定プロジェクト《中京大学豊田キャンパスで活動中》2023.06～▶ お問い合わせはDMや質問箱へ

◎ 愛知 豊田市 [instagram.com/kakehashipj?ig...](https://www.instagram.com/kakehashipj?ig...)

📅 2023年5月から Twitter を利用しています

↑ X(Twitter)のアカウント

質問箱作成

6月13日 SNS 投稿内容決定、投稿画像作成

6月14日 3年生ゼミで宣伝させてもらう

豊田青少年センターと連絡とり始める

6月15日 2年生ゼミで宣伝させてもらう

6月19日 ALBO お知らせ配信

6月21日 物品の購入

当日使用するスライドの作成

○6月22日 17:00～19:00 ワークショップ開催 @84B 参加者 6人



↑ Instagram のアカウント

15時からリハーサル兼準備

- ①あいさつ
- ②アイスブレイク(名前の札作成)
- ③グループトーク
- ④振り返り
- ⑤(希望者のみ)活動に関する説明会

→学部、学年を超えたつながりができた。一人一人の思いや考えなどを共有することで、新たな発見があった。活動メンバーが4名増えた。この活動をしていなかったら出会うことのできなかった学生とつながりができて、活動を始めてよかったと思った。

6月23日 活動参加メンバーに連絡とって、ライングループ作成

6月29日 ミーティング @オンライン

〈概要〉

- ①メンバー自己紹介
- ②チャレンジ奨励金制度詳細、経費使用について

チャレンジ奨励金企画書、経費執行について全体で共有。原則変更しない活動目標を確認。

- ③豊田青少年センター「まちづくり提案事業」について

豊田青少年センター「まちづくり提案事業」に参加するか否か、どのような目的で目標で参加するのかについて話し合う。

→大学のチャレンジ奨励金の活動で目標にしている、大学生と地域をつなぐきっかけとなるイベントを行ったり、ものを作ることができると思い応募することに決定。

- ④7月のイベントの企画について

目的をまず考える。

アイデア出しを行って企画決定。

〈企画例〉・豊キャンアイデアソン (テーマいろいろあり)

- ・ 期末試験勉強会
- ・ みんなの部室
- ・ スポーツ大会
- ・ ボードゲーム大会
- ・ オンラインゲームオフライン大会
- ・ スポーツ観戦大会
- ・ 学生交流型ワークショップ など

役割分担を行う。イベントまでのスケジュールも全体で確認。

〈決定した企画〉

- ①自分たちの活動を知ってもらう→コワーキングスペースで使用者に宣伝
- ②学生同士のつながりをつくる→スポーツ、ボードゲームを通じて楽しく、新たなつながりを生み出す

【7月】

7月3日 ミーティング @オンライン

〈概要〉

①7月に開催する2つのイベントの詳細(以下参照)を決める

コワーキングスペースの自習室との差別化が課題

→自習室の利用者が多く、利用できない学生がいる・・・空き教室を数人で使って、入りづらい雰囲気がある

このことから、自習室との差別化で、

- ・入りやすいようにドアを開けておく、机椅子を自由に動かせる
 - ・カフェミュージックを流す
 - ・軽く話ができる
 - ・課題や試験について相談ができる
- などを考えた。

宣伝方法が課題

→ビラ配りを追加

②役割分担

- ・チラシ作成担当
- ・SNS管理
- ・備品調達担当
- ・当日の進行係

③夏休みの活動について

7月13日 ビラ配り @豊田キャンパス

7月14日 ビラ配り @豊田キャンパス

○7月18日 17:00～ ボードゲームパーティー（ミーティングもあわせて実施）@827教室参加者8人

テーマ「ボードゲームを通じて学生同士のつながりをつくろう」

目的：口や手を動かしながら学生同士のつながりをつくろう！

内容：ボードゲームを行いながら、学部学年を超えたつながりを作ろう

○7月26日 13:00～20:00 @827教室

参加者6人

コワーキングスペースイベント実施（ミーティングもあわせて実施）

テーマ：「カフェ風ミュージックを聴きながら一緒に勉強や作業をしよう！」

目的：私たちの活動を学生に知ってもらう

内容：期末試験に向けて、レポートや試験勉強を一緒にやろう！

（期末試験などの相談もOK）

→企画決定から広報、実施までの期間が長く取れなかったため、人集めや広報の面で課題がある。10月以降のイベント開催の宣伝方法を考えなおしていく。



7月～1月 豊田市青少年センター「学生によるまちづくり提案事業」にメンバーの一部が参加

プロジェクトと並行して、貝津地域とのつながるきっかけづくりに取り組む。

7月9日、16日 企画作成ワークショップに参加 @産業文化センター

中京大学工学部の学生1名、愛知学院大学の学生1名、「大学と地域の架け橋プロジェクト」の学生3名で「学生によるまちづくり提案事業」に取り組む。具体的には、中京大学豊田キャンパスの学生と貝津地域の方を取り上げるフリーペーパーを作成する。費用は青少年センターからの委託という形で実施するため、チャレンジ奨励金の経費は使用していない。

作成に伴い、学内や学外でのインタビューを行う。完成後は、貝津公民館や学内に設置してもらう予定。

(2月9日現在)貝津町、中京大生へのインタビューを終え、フリーペーパーが完成。中京大学、青少年センター、保見交流館、貝津町公民館などに設置。



【8月】

8月3日 保見交流館に電話、区長さんに繋いでもらう

貝津町の長善寺さんとつながる

8月11日 貝津町散策、保見交流館訪問



8月18日 ミーティング @オンライン

7月までのイベントについて振り返り

→人集め、学生側のニーズ、メリットに課題を感じる

宣伝の手段として、ALBO 配信、チラシ貼り付け、ゼミの先生を通じた呼びかけ、SNS、ビラ配りを行っていた。しかしながら、情報が末端まで届いておらず、ビラ配り等の地道な手段の必要性を感じた。

→今年度は、学生と地域に参加者や活動を知っている人を増やすという土台づくりを目標にしていた。当初の予定では、10月以降は、地域の方と学生が集まるイベントを保見交流館で開催予定であった。しかし、学生だけのイベントで思うような結果が出せなかったため、このまま学生と地域の方が集まるイベントを企画し、開催しても、大学生を集めることができないのではないかと考えた。大学生にメリットがあるイベント案を話し合っ出してみたが、納得できる案を出すことができなかった。

そこで、今後の活動予定を考え直した。これまでは、学生と地域の方両方が集まるイベントという形で考えていたが、両方の参加するメリットを考えたときに、難しさがあると判断した。そこで、まずは①学生、②地域の方々に対象を分けて、確実に集める、関係を作っていくという方針にした。「学生によるまちづくり提案事業」の活動では、フリーペーパーを作成することで、ものを介した学生と地域のつながりをつくるようにした。1月のイベントで学生と地域とが確実につながるようにする。

(この方針変更は、後日の話し合いでなくなる)

8月23日 ミーティング(変更した内容について話し合いを進める)@オンライン

8月25日 社協主催のボランティア交流会に参加 @豊田社会協議会

→社協の方が私たちの活動に興味を持ってくださり、社協猿投支所の方と繋いでいただけることになった。

【9月】

9月7日 ミーティング @オンライン

〈概要〉

8月18日のミーティングで話し合った①学生②地域の方々に分けて確実に人が集まる関係づくりを行うという方針のもと話し合いを進める。

①フリーマーケットとカフェのイベント開催を企画

学生側の参加のメリットを考えたときに、食事が意見として多く出たが、食品衛生の観点から実施が難しいことが分かった。そこで、家で使っていないものが、使えるものに変わったり、地域の方が昔着ていた服などは、古着好きの学生の興味を引くと思った。つながりが生まれる場という活動の本来の目標を果たすために、カフェを併設することにした。

②ボランティアや講座など、参加する団体さんの決定

参加先でイベントや活動の宣伝ができること、講座で習得した技術を利用して、簡単なワークショップを行ったりできることから、ボランティアや交流館で開講されている講座に参加することを検討する。

③学生向けイベントの企画・広報

9月11日 「お寺カフェ」主催者の方々との打ち合わせ @貝津公民館 8人

〈概要〉

①お寺カフェの開催日程

11月15日 9:00～

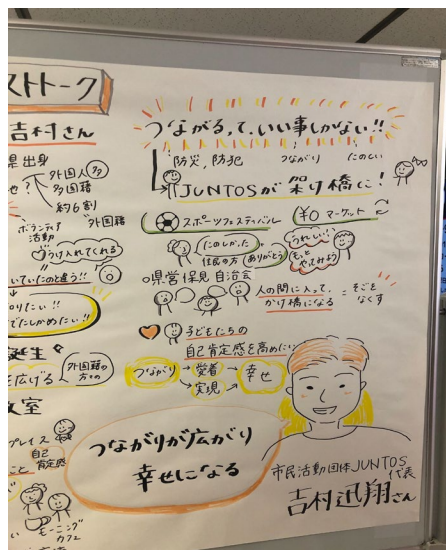
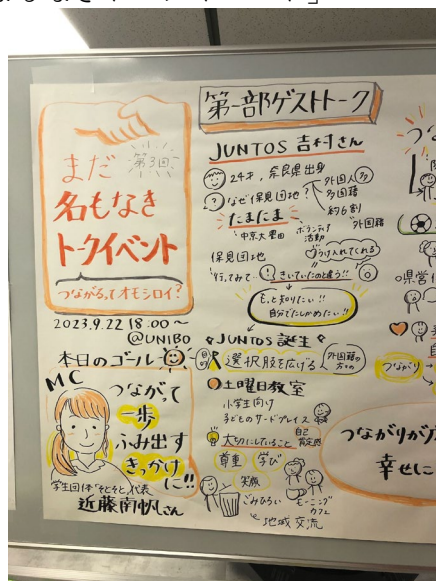
12月18日 9:30～クリスマス会

以上の日程でお手伝いところんカフェの宣伝をさせていただく。

②1月に開催予定のイベントについて、お寺カフェさんとの同時開催という形で行えることになる。10月16日に詳細の打ち合わせを行う。

9月22日 18:00～ @UNIBO

「なもなきトークイベント」



保見自治区で活動されている中京大卒業生 JUNTOS吉村さんのお話を聞きに行く。10月27日 AM に保見自治区にあるフリースペースの見学に行かせてもらえることになった。

→最初に提出していた予定の、学生と地域の方が集まる場を作るという目標に立ち戻って、計画を考え直すことにした。1年の活動で中途半端に関わって終わるということは避けたい、地域の方に迷惑をかけることは避けたいと考えていて、慎重になりすぎてチャレンジ精神を失いかけていたと思った。考えることももちろん大切だが、動いてみて、壁にぶつかったら、またみんなでかんがえればいい。と思って、今後の活動を加速させていくいい機会になった。

→今後の計画について改めて考え直した。

○こりんカフェ

名前の由来は、三河弁で「来りん」来てねという意味で、誰でも着やすく、親しみやすさを持ってほしいとの思いからカフェという名前に。

利用方法は自由で、自由に来て、自由に過ごして、自由につながる場を目指す。利用者がつながるきっかけ作りのために、カフェ内で定期的にイベントを開催する。

サードプレイスになりうることを目標にしてるので、サードプレイスの特徴である時間的に場所的に利用しやすいことという条件に近づけるよう、場所は貝津町公民館で、時間は1日もしくは半日開けたままにすることにした。

9月25日 今後の方針を再検討するミーティング

《フリースペース兼カフェ(来りん)》を週に1回のペースでオープンする。

- ・日時：金曜日もしくは土曜日
- ・場所：貝津公民館
- ・内容：学生、地域の方が、自由に集い、自由に遊び、自由につながるスペース。簡単なドリンク、お菓子を用意して提供する。

開店時間が6時間ほどで、そのうちの数時間を使って、さまざまなイベントを開催予定。

9月28日 ミーティング（中間報告書完成）

【10月】

10月7日 例大祭(秋祭り)

→区長さんにアポ 子ども神輿、式典などを見学

10月16日 お寺カフェさんとの打ち合わせ（この日までに1月のイベントの詳細を決める）

10月27日 AM JUNTOS吉村さんと約束 保見団地見学

13:00~19:00 @貝津公民館

第1回フリースペースとカフェ OPEN

《オープンまでにやること》

- ・カレンダー付きのショップカード兼チラシ作成
- ・区長さんに場所取りの連絡
- ・10月16日のお寺カフェさんとの打ち合わせまでに、1月のイベントの詳細を話し合う
- ・ドリンク、おやつの経費の計算と何を買うか決める
- ・メニュー表つくる
- ・飾りつけのデザインを考える
- ・11月の各日に開催するミニイベントを考える、準備
- ・広報（ALBO、大学でピラ配り、チラシ貼り付け、地域の回覧板、地域へポスティング、身近な友達に声かける）
- ・WiFi
- ・準備物の調達

10月27日 13:00~19:00

保見団地 JUNTOS 吉村さんアポ・保見団地見学

フリースペース、JUNTOSの活動について聞く
保見区長さんとお話

・学んだこと

子どもたちを中心とした地域活動の重要性
いろんなひとを巻き込むことの重要性
積極的に地域の方に提案してみる大切
さ

●第1回こりんカフェ@貝津町公民館



参加者計 25 名(地域カラオケクラブの方 11 人、お寺カフェの方 5 人、学生 6 人、社協・市役所の方 2 人、副区長さん)

お寺カフェさんに、宣伝、コーヒーマシーンなどの貸し出しで協力していただいた。

・良かったこと：本来目標としていた、一人暮らしの学生の 1 つの居場所を増やせた。副区長さんとお話して、子ども会の会長さんを紹介していただき、次回のカフェでコラボができることになった。

副区長さんとじっくりお話ができ、もっと学生にいろいろな活動をやってほしいといわれた。

・課題点：

「カフェ」という名前であるが故に、お寺カフェとの使い方を混同してしまう方がいた。具体的には、開始時間に来て何をしたいかわからない、何時に帰ったらいいかわからないとのこと。

→フリースペースであること、自由な使い方をして欲しいことを伝えていく必要がある。お寺カフェでのお手伝いの際に伝える。各テーブルにこりんカフェの利用方法や、想いを書いた紙を張ることにした。

・2 回目に向けた改善点

机をブース毎に分けて、看板づくり、折り紙、作業などを自由にできるようにする。飲み物、お菓子をセルフで提供する。

ミーティング

次回に向けた ALBO 配信文の作成

11月12月のこりんカフェ内で行う簡単なワークショップや、イベントの企画

10月28日

ALBO 配信文の修正

学生支援課の方と経費について相談

11月4日

こりんカフェ利用方法の案内作成(メンバーの認識合わせる)

11月6日

必要な物品の購入

豊田市の保健所にカフェ開設の相談

11月10日

物品の購入→現品確認

フリードリンク、お菓子コーナーについて相談

11月11日 10:00~16:00

●第2回こりんカフェ@貝津公民館





こりんカフェの様子を
貝津だよりに掲載していただく

参加者 80～100 名

(小学生以下 35 人、保護者 20 人、高齢者の方 10 人、市役所の方 8 人、学生 10 人、副区
長さん、)

子ども会の方とのコラボで、ゴミ拾いイベントの後の子どもたちがたくさん来てくれた。
自由に団らんを楽しむ机、看板づくりを行う机、折り紙を教えてもらう机、トランプで遊
ぶ机など、ブースごとに楽しめるようにした。それぞれが自由に過ごしていて、私たちが
つくりたかったフリースペースに近づいていると感じた。

・良かったこと：私たち自身も一緒に看板を作って楽しめた。子どもたちをきっかけに、多世代交流ができた。貝津町の多くの方に知っていただけて、利用していただけた。宿題をしている小学生、家計簿をつけているお母さん、広告で入れ物を作っているおばさま、編み物をしている方など、使い方はそれぞれで、興味を持った人同士で会話も生まれていた。

・課題点

看板づくり、トランプなど、何かを用意しなければ退屈に感じてしまう方がいること。

→絵の具、自由帳、トランプ、ボードゲーム、おりがみを用意。

地域の方は夜遅いと暗いので来にくい一方で、学生は授業や部活動があるので、夜遅くまで空いていたほうが利用しやすいという開催時間の食い違いがあった。

→この答えは、開催してみて見つけたい。

11月15日

お寺カフェのお手伝い

人形劇「ゆめ」さんの公演。

人手不足、高齢化により、活動を今年度末で終了されるとのこと。人形劇の道具の引きつぎ手を探されているとのこと。



11月17日 13:00～18:00

●第3回こりんカフェ@貝津町公民館



みんなの色が出た看板が完成！

参加者 25 人

(学生 10 人、小学生以下 8 人、地域の方 4 人、農家さん、保護者の方 2 人)

雨模様だったこともあり、来場者数は増えなかったが、リピーターで来てくださる人が増えてきた。小学生が学校終わりに来て、宿題を広げて始めたり、おりがみで遊んだり、自由に遊んでいた。1歳半の子がいるファミリーも来てくださって、こりんカフェが「かわいい」で溢れかえっていた。

前回の改善点として、自由帳・おりがみ・トランプなどを用意した。子どもたちとおりがみやトランプで盛り上がった。地域のおばさまたちは、毛糸を持ってこられて、あやとりをされていた。私たちが目指すフリースペースに近づいているように感じた。

・課題点

小学生の子で回覧板だけでは伝わっていないという指摘があった。

→子ども会さんに声掛けをお願いします。カフェに来てくれている子供達に友達を誘うようお願いする。

学生の参加が伸びず、学生が集まる仕組みやイベントがなかなか企画できない。

→12月1月にトークイベント、ワークショップを企画。他団体とのコラボも検討。

→次回のイベントのフリーマーケットで何を持ってきたらいいかわからないという声があった。

→フリーマーケットの時に、リクエストボックスを作成。1月のフリーマーケット開催時に紹介する。

11月25日 10:00~16:00

●第4回こりんカフェ@貝津町公民館

13:30~15:00 フリーマーケット



参加者 29 人

(地域の高齢者の方 8 人、農家さん、家族 4 人×2、家族 3 人、学生 5 人、区長さん、お寺カフェの方 2 人、大学と健康寿命の延伸に取り組んでおられる方)

朝一番から貝津町の方が来てくださった。インスタグラムのフォローや写真撮影などをしてくださり、次回もまた来てくださることに。いつも来てくださるおばさまが今日もずっといてくれた。

フリーマーケットの前には、前回カフェに来てくださった農家さんが、たくさんのフリーマーケットの品を持ってきてくださった。お米から大根から農機具まで・・・「地域の人に、なんだ、すごいじゃん！と思ってもらわないとね！」と。地域の方に本当に支えられていると思った。次回 1 月 20 日には五平餅の露店をしてくださるかも・・・と言う話も出た！

活動がどんどん広がっていくのがとても楽しい！

学生がゲーム機をもってきた。どんどん自由な使い方を見つけて過ごしてくれている。

12 月 1 日 13:00～19:00

●第 5 回こりんカフェ@貝津町公民館
うち、17:30～学生つながりイベント



学生運営カフェで学部学年を超えた繋がりを！

現在、中京大生3名で貝津公民館にて週に1回、大学生と周辺地域の方を結ぶカフェを運営しています。そこで今回、学生の皆さんにも是非カフェを利用し新しい繋がりや発見をしていただきたく、学生限定イベントを開催します！

12.1 17:30-18:30 Friday
場所：貝津公民館 参加料：無料
Wi-Fi完備 ドリンク・お菓子あり

Instagram X(旧Twitter)
QRコード

後援：中京大学【大学と地域の架け橋プロジェクト】

お申し込み方法 お申し込みは各SNS掲載Googleフォームまたは下記QRコードより
主催/中京大学【大学と地域の架け橋プロジェクト】
7回までこりんカフェを運営中
お問い合わせ: choko@kaminari.org@gmail.com 詳しい情報はSNSをチェック



ゼミの先生と地域の方の話が盛り上がっていた！



参加者 20人

(地質調査会社の人3名、地域の人3人、学生13人、ゼミの先生)

一階の大ホールでは、地質調査が行われており、貝津町の役員さん、市役所の方、会社の方が来られていた。今回は和室での実施で暖かさを感じた。

区長さんの「ちょっと上行ってコーヒーでも飲んでこい！」という言葉で来ましたと言う方が何名もいらっしゃって嬉しかった。

農業組合の方からお話を聞く中で、農業の担い手不足という課題を知った。貝津町の若い人にして欲しいけど、仕事で忙しい人が多いと・・・この課題に学生が関われないか？と思った

公務員講座の説明会で知り合った女の子2人組が興味を持って来てくれた。「思ったよりもあたたかかった」という言葉。もともと興味を持っていてくれたそうで、来年以降の活動もぜひしたいとのこと。

12月9日(土) 10:00~16:00

●第6回こりんカフェ@貝津町公民館



学生になついてしまつて離れなくなつて

参加者 18人

(学生 5 人、区長さん副区長さん役員さんお寺カフェの方 1 名、地域の方 3 名、子供 5 名、中学生 1 名)

区長さん副区長さん役員さんが、町の用事のついでに寄ってくださった。お昼からお母さんと子供 3 名が来てくれた。こりんカフェがとても賑やかになった。16 時まで残っていてくれて、帰りには大学生に懐いて帰りたくない！と言っていた。

中学生の子が宿題を教えて欲しいと言って来てくれた。私たちみんなで協力して数学の宿題を教えた。まさかこんな風に必要としてもらえるとは！と新しいこりんカフェの使い方を発見した。

お母さんがいなくても子どもたちだけで遊びに来たりしてくれていた。大学生が子どもたちと遊んでいて、初めは心を開いてもらえてなかったけど、最後は泣いてくれるまで別れを惜しんでくれてとても喜んでいた。

・課題点：

ゼミの先生の授業でお話しさせてもらう機会をいただいて、チラシ等を配ったが、Instagram 等のフォロワー増加はあったが、実際に足を運んでもらえなかった。

→20 日に向けて、声掛けを行う。

学生の参加者が少ない。伸びない。

→こりんカフェのイベントの 1 つとしてクリスマス会を企画してみる。そのなかでいつもとは変化をつけるために、ケーキやドーナツなど特別なお菓子をを用意したい。

12 月 20 日 (水) 13:00~18:30

●第 7 回こりんカフェ@貝津町公民館



参加者 27 人

(学生 13 人、小学生 9 人、お母さん 3 人、地域の方 1 人、農家さん 1 人)

小学生が 4 時間授業だったので、13 時半ごろから来てくれた。お母さんが懇談会で、その間にこりんカフェで遊んでいた。子どもたちがこりんカフェで遊んでいる間に、お母さんたち同士でもお話ししていて、横のつながりが作れたと思った。書道教室があったので、始まる前と終わった後に子どもたちが遊んで待っていることができた。

クリスマス会ということで、学生にはドーナツを用意した。今年最後ということで、声掛けなどをいつも以上にやってみたが、なかなか集まらない。常連の学生からは、他の曜日がいいとのリクエストもあった。開催日時については、要検討だと思った。

・課題点

学生の利用者数が増えないこと。

私たちはコロナ禍で、行動範囲が限定されていたため、近い学内のつながりを欲していた。そのつながりでいろんなことができると考えていた。同学年でサークルに入っている学生は少なく、学外で活動することにも、気を使っていた。

しかし、コロナが明けて、学生は学校を超えて、自由にいろんな場所へ行けて、学外でいろんなつながりを作ることができるため、こりんカフェを利用して学内でのつながりを作ることのメリットが少ないのではないかと気づいた。

刺さる学生には刺さるが、コロナ禍では刺さっていた学生が、学内や学外の活動に流れていると感じた。それでも、サードプレイスの必要性は揺らがないと思った。

1月12日(金) 13:00~19:00

●第8回こりんカフェ@貝津町公民館

体調不良のためお休み

1月20日(土) 10:00~16:00

●第9回こりんカフェ@貝津町公民館



五平餅は早々に完売に・・・！

**環境保全と向き合う
堆肥プロジェクト**

団体名：中京ファーム

中京大学工学部メディア工学科の3年生のグループが中心となり、生協食堂の売れ残りや堆肥化してキャンパス内の緑で野菜を栽培し、収穫物を全て楽しむ活動を行っています。農田と中京大学の連携事業にも採択され、その事業予算によって、東京方面の一泊旅行でコミュニティ農園の視察にったり、大学の近隣住民とも協力して家庭での食ロスの堆肥化や家庭菜園にも取り組んできました。

宮田ゼミ
中京大学

連絡先: gabelon.nuk@gmail.com

春休みにはピザ窯と焼酎も作って、新学期に向けてピザパーティーを企画したり、新しい焼酎で活動広げる企画もしています。地域のみなさんと協力して食ロス削減や環境保全で地球に貢献しながら、自分たちも健康的で美味しい食を一緒に楽しむ時間を大切にしていきたいです。

興味がある人はぜひ活動を見に来てくれると嬉しいです。

問い合わせ・連絡先:



お寺カフェさんと
共同開催！

フリーマーケット

Kaizu x Chukyo

開催日：2024年1月20日
11:00～15:00 (出入り自由)

今年度最後のこりんカフェは企画が盛りだくさん！
カフェやフリースペースとしての利用もできますので、
お気軽にお越しください。

使えるけど
使わないものを
お持ちください。

持ち帰りのみ
大歓迎！その場で
の物物交換OK！

10時～二胡の演奏、
11時～五平餅
の出店あります！

*終了後は、お持ち帰りをお願いします。

こりんカフェ
開催場所 / 貝津町公民館 大ホール
連絡先 / 中京大学【大学と地域の架け橋プロジェクト】
chukyo.kakehashipj@gmail.com

今年度最後です。
たくさんの支援、ご協力を
いただき、ありがとうございました！
貝津町と貝津町のみなさんが
温かくて大好きです。

今年度のこりんカフェのご利用
ありがとうございました。

アンケートにご協力をお願いします。

こりんカフェは、大学生と貝津町のつながりが自由な交流、自由につながることを目的としています。コロナ禍を経験した学生の、身近にゆるやかな居場所があればいいの！という思いから、発起しました。皆さんの支援、協力のおかげで今年度の活動を終えることができました。不慣れでなかなか上手く運営できなかったかもしれませんが、みなさんの素敵なつながりをこれからも大切にしていきたいと思っています。

Q. 年齢を教えてください。

Q. お住まいを教えてください。
貝津町 貝見町 赤水町
それ以外

Q. 中京大生はこらに学年、
学部を記入してください。

Q. こりんカフェを知ったきっかけ
を教えてください。

Q. こりんカフェに行ってみよう
と思った理由はなんですか？

Q. こりんカフェを利用してみた感
を教えてください。

Q. こりんカフェでどのような
つながりが生まれましたか。

Q. こりんカフェをどのように利用
されていましたか。

Q. 大学生にお願いしたいことが
あれば教えてください。

Q. 来年に向けてこりんカフェに期待すること
があれば教えてください。

【自由記入欄】

アンケートへのご回答は、来年以降のこりんカフェ運営の参考にさせていただきます。
ご協力いただき、ありがとうございました。

参加者 50 人

(学生 15 人、小学生 11 人、お母さん 3 人、副区長さん、高齢者の方 9 人、お寺カフェの方 8 人、農家さん 1 人、市役所・社協の方 2 人)

最後のこりんカフェということで、お寺カフェさんと共同で企画を行った。お寺カフェさんは、二胡の演奏を、私たちはいつも通りのカフェの営業とフリーマーケットを行う。農家さんが、五平餅の販売をしたいと言う話を提案してくださって、外では五平餅の販売を行われていた。こりんカフェはもっと学生に利用してもらおうべきだとの考えから、五平餅の値段を学生割引として安く販売していただいた。

二胡の演奏からたくさんの方が集まり、カフェで一服をしてからみなさんお昼前には解散されていた。午後からは学生や、子どもたちが主で、自由な過ごし方で楽しんだ。

こりんカフェでは多世代交流のほかにも、国際交流ができたねという話になった。二胡の演奏で中国の音楽に触れ、韓国とアメリカの留学生とのつながりができた。

中京大学工学部宮田ゼミさんが行われている堆肥プロジェクトを地域の方に知ってもらいたいとのことで、こりんカフェに来られた。農家さんに紹介したところ、ぜひ参加したいとのことだったのでつなげることができた。こりんカフェが人と人をつなげる場所で、架け橋になれているかな？と思った。

2月8日

こりんカフェ参加者の一部が、中京大学宮田先生主催での市役所の方、地域の方との意見交換会に参加。

豊田市市役所、FFC豊田みよし、貝津町・浄水町の方々、宮田ゼミ生の方と意見交換を行い、今後の活動において互いに協力を行い、つながりを明確なものにしていくことを決め、グループLINEの結成に至った。

7. 参加者名簿（足りない場合は各自で列を足してください）

番号	学籍番号	学年	氏名	備考
1		4	澤村亜依	リーダー(共同)
2		4	上嶋文恵	リーダー(共同)
3		3	柴田龍祈	
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				